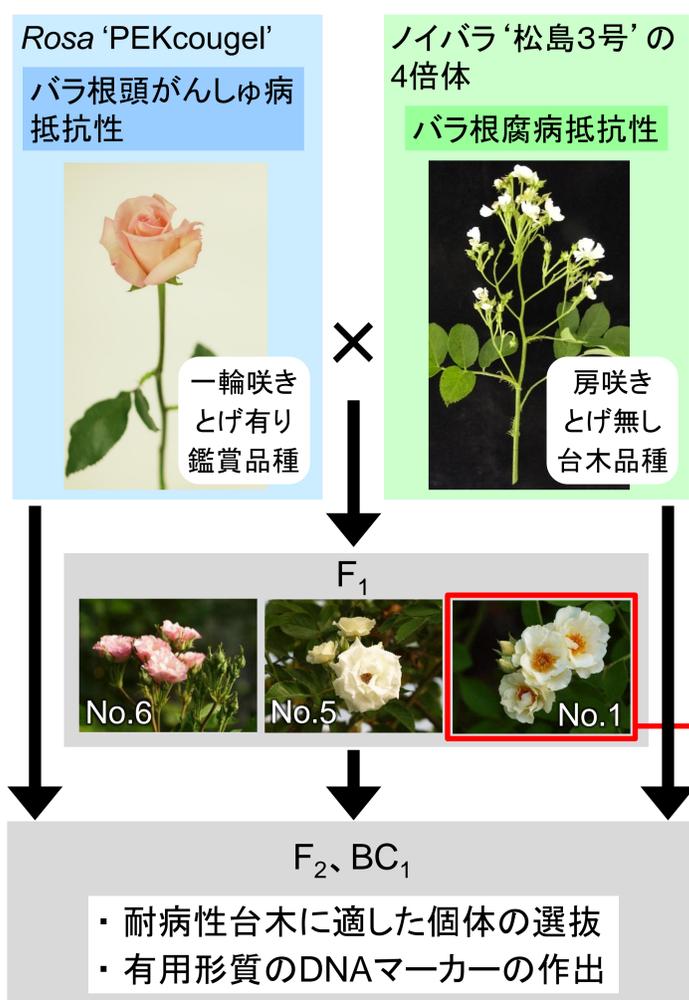




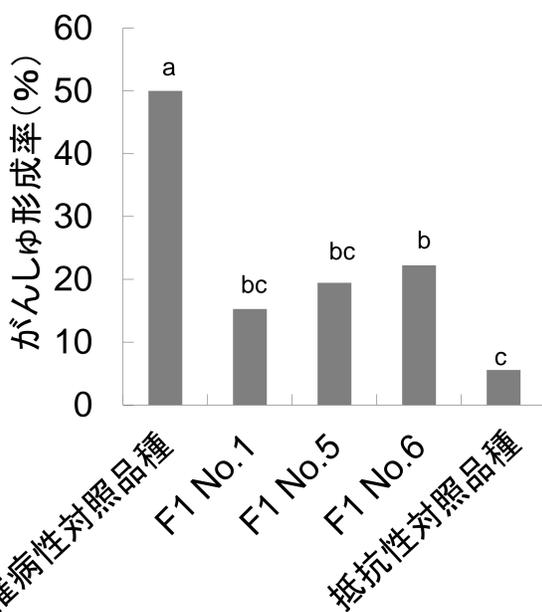
概要

バラ根頭がんしゅ病抵抗性品種とバラ根腐病抵抗性品種との交雑により、両病害に抵抗性をもつバラ台木の作出を進めている。1品種をすでに実用化しており、より優良な個体の選抜を継続している。また、同交雑集団を用いて、両病害への抵抗性や花序形態などバラの育種において有用な形質のDNAマーカーの作出および原因遺伝子の探索も並行して実施している。

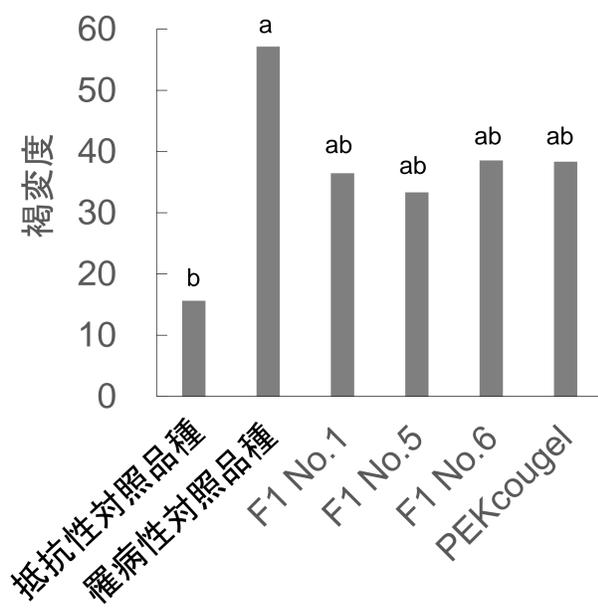
研究内容



バラ根頭がんしゅ病抵抗性検定



バラ根腐病抵抗性検定



F₁-No.1を先行して実用化

- ・ '岐阜大台木1号' として品種登録 (登録番号 第24506号)
- ・ バラ苗の営利生産での実用 約 14,000株/年

【バラ苗生産者の感想】

- ・ 根頭がんしゅ病の発病が少ない
- ・ 成長が遅いことが課題



現在は交雑集団の中から、両病害に高い抵抗性を示す個体の選抜を進めている。これまでにバラ根頭がんしゅ病に抵抗性をもつと確認された個体 (F₁-No.1) を品種登録し、バラ苗の営利生産で実用化されている。

既存の台木品種と比較して生産性がやや低いこと、根腐れ病抵抗性の向上は十分でないことが課題となるため、F₂およびBC₁集団を対象として新しい候補個体の選抜を進めている。また、本交雑集団では、花序形態 (一輪咲き～房咲き (多花性)) やとげの有無について形質の分離が認められているため、これらの形質についてDNAマーカーの作出や原因遺伝子の探索も行っている。

活用分野・用途・応用例

耐病性台木の開発・利用はバラ苗の生産効率の向上と商品としての品質向上につながる。また、有用形質のDNAマーカーの作出、原因遺伝子の特定は育種への応用が可能である。